

【大学等・一般の部】最優秀賞（大分県教育の日推進会議会長賞）

未来の私とふるさと

別府溝部学園高等学校看護専攻科 1年
姫野萌々花

私は、将来看護師になりたいと考えています。現在、私は5年一貫の看護科で学び始めて4年目です。入学したての頃は明確な意志がなく、なんとなく「看護師になれるように頑張ろう」と考えていました。看護師になることを目標にしているだけで、看護師になった後のことは全く考えていませんでした。

看護師が身に付けておくべき技術や疾患についての知識、社会保障制度などを学んでいる時、「高齢者」や「高齢化」という単語がよく出てくると感じていました。日本は世界の中でもトップレベルの超高齢社会です。高齢化の程度を示す高齢化率は28パーセントを超えており、2065年には高齢化率が38パーセントに達すると推計されています。もちろん、私が住んでいる大分県でも高齢化が進んでいます。それを実感したのは臨地実習の時です。これまで、病院での実習を2回させていただいて多くの気づきがありました。その気づきの一つは、入院している患者様には高齢者が多いということです。病院や病棟の特色にもよりますが、高齢者の入院が多いのは事実だそうです。実習中に大分県の高齢化を実感し、私の中にある思いが芽生えました。それは、高齢者の看護について詳しく知りたいという思いです。入院中の高齢者の方とコミュニケーションをとっているうちに、高齢者に対する看護について興味が湧いてきました。

高齢化が進み、高齢者の入院も増加している今、高齢者に対する看護は今後ますます重要になってくると私は考えます。若年者と高齢者では身体機能はかなり異なり、行う看護も違ってくるため、それに対応する知識や技術をしっかりと身に付ける必要があります。学んだことを実際の看護に結びつけることで、高齢者の方々によりよい看護を提供できると思います。私は、看護師の国家試験に合格したら大分県内の病院で働きたいと考えています。これまで大分県をつくり、支えてくださった高齢の患者様に対して、看護というかたちで感謝を伝えることができたらと思います。実習中にお話させていただいた高齢の方の中には、「大分が好き」や「大分がいいなあ」とおっしゃる方もいました。そんな高齢の方々に、感謝が伝わるような看護をしたいです。

看護科に入学した時、特段に大きな思いを持つことなく、なんとなく看護師になれたらいいなという考えしかなかった私ですが、学習が進み、知識が増え、臨地実習を経験させていただいたことで、自分のふるさとである大分県で高齢者の看護に携わりたいと考えるようになりました。既に高齢社会ではありますが、今後も高齢者は増え続けます。高齢者が増えれば、当然高齢の入院患者様も増えます。その時、自分にできることは年齢を考慮した看護です。年齢に合わせた看護を行い、少しでも大分県の高齢者の役に立てるよう、日々努力を惜しまず、よりよい看護ができる看護師になりたいです。

未来の私が少しでもふるさと、大分県の役に立っていてほしい、そう願います。